



2023年3月2日(木)～3日(金)

クマさん会・三原山(758m) & 植樹祭り・「熱海組」初日リポート

～ Report by 石井 ～

予定日の天気予報が目まぐるしく変わり、「雨の可能性あるかも・プランの変更が必要か・欠航する場合も・山は強風も注意だろう」等々、出発前は情報が飛び交い、やり取りが頻発する状況が続いていた。伊豆大島・三原山ハイキングはどうなるのだろうか？ 果たして、波乱の様相を見せていた結末は・・・

今回の「熱海組」参加メンバー

リーダー・「5時ラのしゅう」

サブリーダー・「風の文三郎」

組子・「あんこ好きのイシ」

(組子が判る人は通)

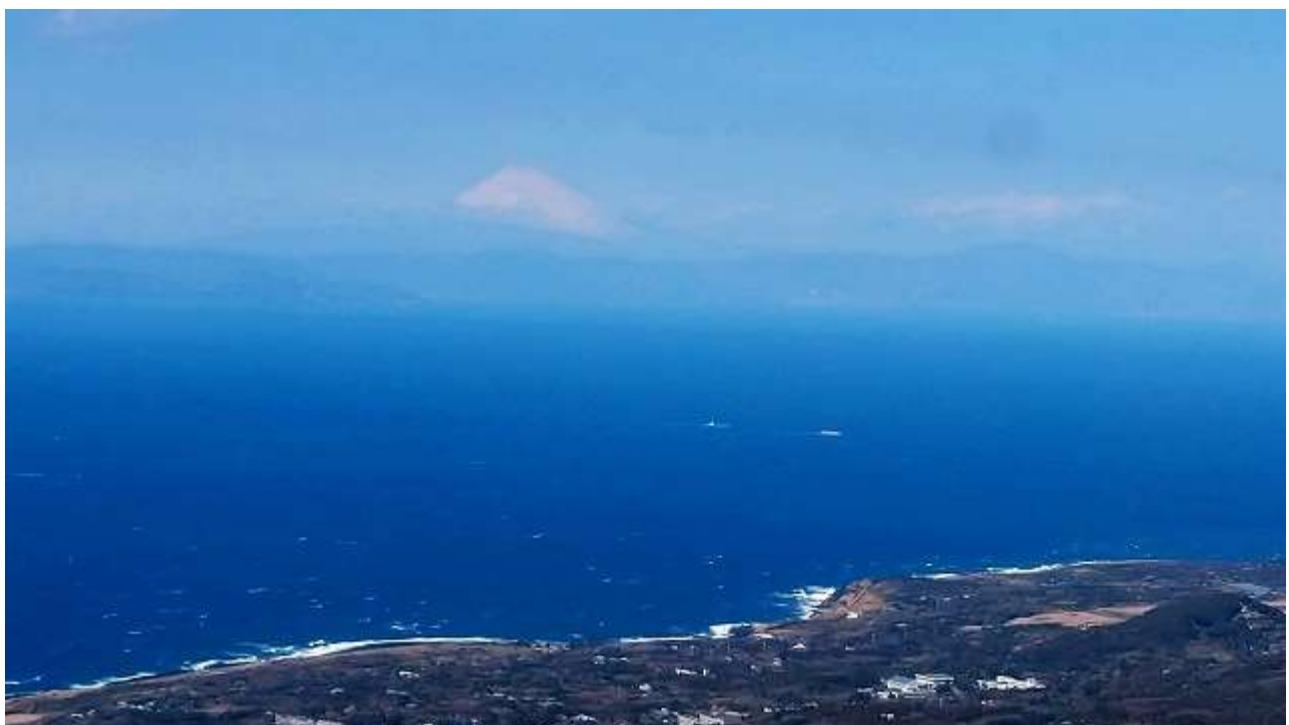
\*湯河原ハイクの様ないわれは書かない

この3人、天候・欠航・その他いろいろ

三者三様、成り行き任せの感じだった



○岡田港にある「ジオステーション岡田港」の3F「海のキッチン」で、バス待ちのコーヒーブレイク



11:53・熱海組・いきなりの「富士山」・三原山登山口にて・(竹芝組・ごめんなさい)



話はスタート時点に戻るが、平塚 7:09・「15両編成」の電車に乗り熱海駅へ、そこからバスで熱海港へ



9:00 発の「ジェット船」に乗る。8:17・竹芝組から「引き返し条件付きで出航」したと連絡があった



乗船客は十数人だったように思う。ガラ空きだった。熱海組も同様に、「引き返し条件付き」だった



シートベルト着用サインが出る。座席の前にはウレタンのクッションが貼ってあった・緊急時の衝撃緩衝用

○ここで、竹芝組と熱海組の「同時刻位の海況」を30daysにアップされた写真で比較してみた



9:01・竹芝組の「ブーメラン号？」が「久里浜沖」を通過中の写真だろうか？

（写真正面の船の船尾の奥方向に、多分そうだと思うが「火力発電所の煙突？」が見える・・・）未確認  
下の熱海組よりも「うねり」は、ややある様に感じるが、この時点ではあまり大差なしか？



9:10・熱海組は「セブンアイランド号」に乗船。出航後の港外の写真

「ウサギが飛んでいる」・（海の用語で・風が強く白波が多く立っている時に使われる）

この状況では、釣り船等であれば、まず出ないだろう

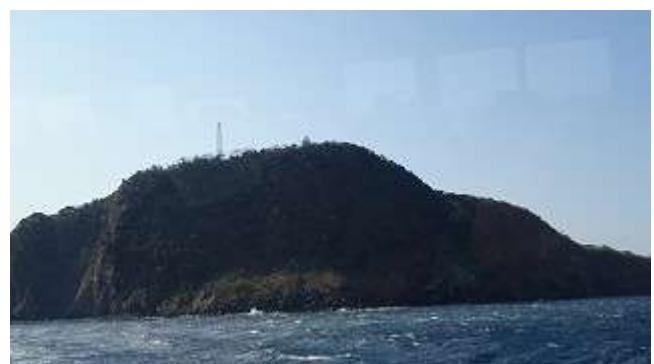


経由地の伊東港へ向かう途中の初島だ



9:34・今は昔、プレイした川奈のコース、海上から見ると印象が違う。天城の山々も視界に入って来た

9:39・竹芝組から、東京湾口の状況が悪く「引き返し中」と連絡が入った・・・まさかの残念！！



9:52・伊東を出た後、波浪で多少の揺れはあるものの、さしたる問題もなく航行していた。暫くすると「利島」が、うっすらと見え出し、「なんとか行けそうだ」、あとは「接岸が出来るかどうかだろうな」と考えていたら、岡田港が目前に・・・港は北向きの風裏だから大丈夫そうだと思って見ていたら



10:00・すんなりと接岸。予定より5分早く着いてしまった  
定刻前の到着で、港内作業員がバタバタと慌てて出て来て係留作業を始めたのが、何ともおかしかった

ジェットフォイルは  
右の写真の様に浮かせて航行するので  
水の抵抗を受けにくくスピードが出る  
ただ「高波」や「うねり」には弱いそうだ  
(航速は45ノット・83km)

＜参考＞  
イージス艦は通常船舶では最速クラス  
(航速は30ノット・54km)  
こちらは戦闘艦で波高しでも大丈夫



上陸後、山頂登山口行きのバスには時間があるので、後方にある「ジオステーション岡田港」に向かった



「あんこ」が出迎えてくれなかったので、これでご勘弁を・・・左から「抹茶・コシ・つぶ」、何の事やら



近年出来た建物なのだろう、館内は 1F が東海汽船関係・2F にお土産屋・3F にカフェがある



10:50・建物前で「三原山・山頂口」行きに乗車・¥900。バスもガラガラだった（欠航の影響？）



11:17・三原山登山口 (550m) 到着・ドイツ語圈かと思われるカップルを除いて誰もいなかった



この時刻に、「つばめの兄弟」は  
品川で残念会の酒盛り中  
何やら楽し気な感じがする  
池戸さんは、三浦海岸へ・ナンパ（花見）に  
行かれたらしい



さて、山登り前のランチだ。右の様な洒落たカフェもあったが、左の「ガツツリ系？」にした

中に入ると、入っ子一人おらず  
「がらん・ガラン」と音が鳴っていました  
手前の入り口付近に、お土産スペースがあり  
結構広いのだ  
団体観光客相手の食堂の様だ  
でも、「昔のあんこ」さんは、愛嬌があった



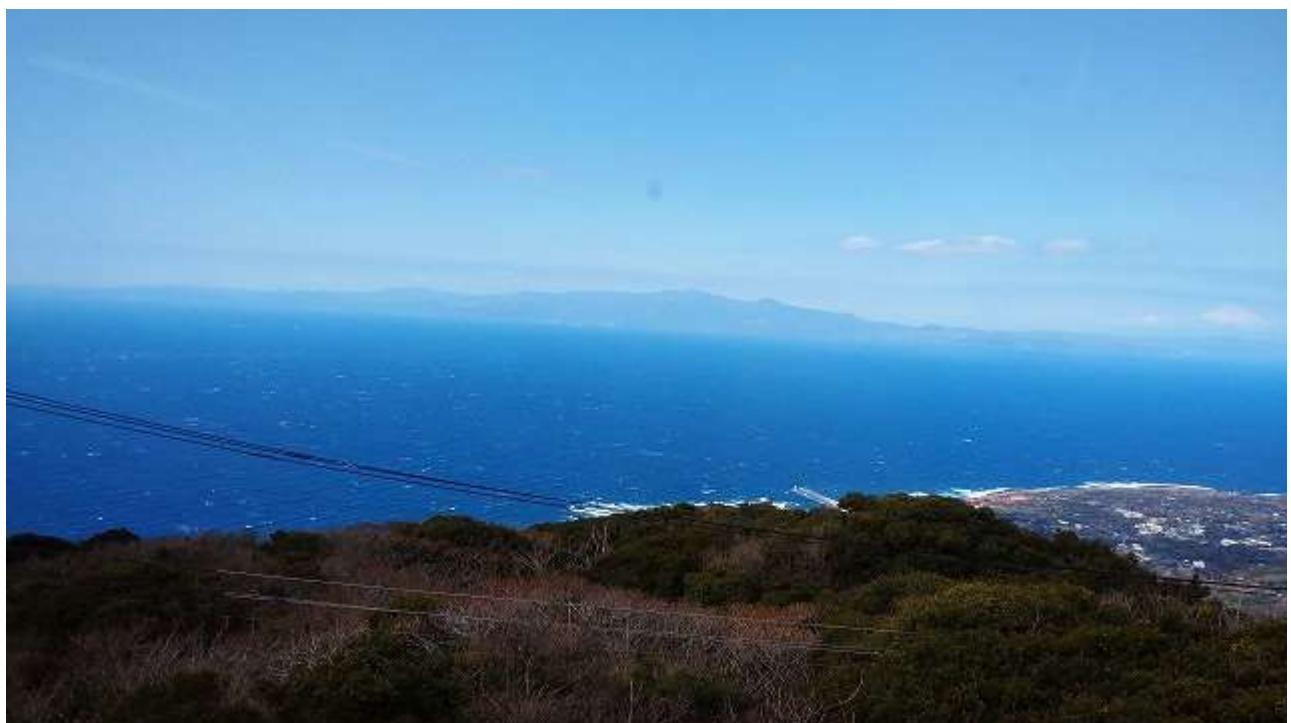
リーダーが食べているのは「・です」。ランチ不要のメールを読み落として、持参した物があったとか・・・



サブリーダーの「抹茶」さんは、怒っているのではない。「天ぷらそばセット」を食しておられるのだ



「つぶ」は「椿天丼」。椿の花びらが・と想像したのですが・「椿油を混ぜたオイル」で揚げてあるとの事  
写真よりも、「明日葉」は大盛でした。この後も、「椿・・・」に関しては、色々とありました



冒頭で富士山をお見せしたので「伊東側の景色」もご覧あれ・・・



12:00 過ぎ・「三原山」、登山開始である。風は吹いていたが寒さはあまり感じなかった  
「欠航にもならず・雨にも遭わず・烈風にさらされるとも思わず」、そんな楽しい登山が・・・

# 富士箱根伊豆国立公園 三原山内遊歩道案内図

FUJI HAKONE IZU NATIONAL PARK GUIDE MAP

ML.MIHARA HIKING COURSE



凡 例	路 線 名	距 離	所要時間
赤	箱根・奥箱根 (砂利道)	3.2km	65分
黒	カルテラ周遊線 火口一周コース (砂利道)	2.5km	45分
オレンジ	周回乗馬コース (砂道)	2.8km	60分
緑	火口見学道 (砂利道)	0.4km	10分
青	山頂遊歩道 (舗装道)	2.2km	45分



登山道口を降りると案内板があり、真ん中のブルーの線の「舗装された火口遊歩道コース・2.2km・45分」ではなく、舗装道路が嫌で、右のオレンジ色の線の「周回乗馬コース・砂道・2.8km・60分」を、独断気味に選択して貰った。「馬しか行けないのか?・砂道?」・・・よく判らないけれども何とかなるだろう



更に行くと「周回乗馬コース」ではなく、「表砂漠コース」とある。右方向はこれしかないので行く事にした登山客が大勢来るだろうに、この表記は？！（\*持参したマップには「表砂漠」とあったので理解はしたが）



進んで行くと砂地ではあるが、砂漠感は無い。馬ではなく人の足跡が多くある。大きな岩は何処から来たのか



30分程、砂のなだらかなアプローチ道を歩くと、三原山の裾野付近に出た。周りを見渡すとコース案内にあった「表砂漠コース」にふさわしい景観だった



さらに行くと、鳥居があったのでここで記念撮影をすることにした。風が強くザックを立ててカメラを置いたが倒されてしまった。「クマ旗」も下を抑えていないと、はためいて形にならない状態だった



ジグザグのつづれ織りの山道を登って行くと、「伊豆七島」の「利島・新島？・三宅島」辺りが、見える様になって来た。雲は無いが、昨日の雨で空気中の水蒸気が多いのか、茫洋と霞んで見える



さらに登ると、伊豆半島も大島との間の海も良く見えた。海はいい・・・



12:56・約50分程度で、火口一周コース上に到着

花粉?で、鼻するズルのおじさんも



山頂（剣ヶ峰）は吉松さんが指差す方向にある

これでは「剣ヶ峰」を遮って使えませんよ～



周回を始めると、吹きっ晒しの山頂部は突風気味で、帽子も押さえていないと持っていかれそうになる

13:14・山頂中央火口部に到達  
何かしら拍子抜けの光景だった

「みはあらあ～やまあ～かあらあ～  
ふきだあすう～けええむううりい～」  
出でいないのです・・・噴煙無し  
「御神火」と言われる三原山なのだが  
・・・つまんないなあ～・・・



剣ヶ峰（758m）へと歩みを進めて行くと風のレベルが一気に上がって来た。指差すのが好きらしい



13:20分頃・間もなく剣ヶ峰という所で、なんとも凄い「烈風」が吹き始めた。フルスロットルだ！！  
吉松さん曰く、「20m」は吹いていただろう・・・  
「やっとこさ」立っていられる状態で、スムーズには歩けず、ロープや支柱に掴まってやり過ごす  
ここからは、風の呼吸に合わせながら、ロープや支柱に頼りながらのノロのろ歩行になった  
写真を撮るのも一苦労で、支柱に体を寄せて写した

今思えば、「御神火」なのに噴煙も無く「つまんないなあ～」と思った事が、三原山の神様の不興を買いました  
それではと、「御烈風」で応えてやろうとされたのかも知れない・・・三原山の神様、「恐るべし！！」  
剣ヶ峰は、記念撮影どころではなく、「すたこらさっさ」と通り抜けるしかありませんでした  
でも、結構「面白かった」です。「神様のいたずら」・・・



1986年の割れ目噴火・B2火口とあったが、ここではそれなりに噴煙が見られた



剣ヶ峰を過ぎても風は強かったが、下りきった辺りでやや一息となった。右は演技をする余裕も



下山道は緩やかだったが、相変わらずの強風だ。枯れ尾花が右方向へ強くなびいている



標識に、「大島温泉コース」・「テキサスコース」とある。右は地震観測用の施設だ

右手のテキサスコースに行けば、「大島公園」の近くに出るようだが、途中の「テキサス」は、どんなだろう



はるか彼方に「大島温泉ホテル」が見えている。眺めのいいところだった。「ゆっくり・お散歩」気分だ



吉松さんが指さす先を見ると、B2 火口から噴煙が出ている、と言いたいらしい



途中には、「ロックガーデン」があったが、中までは入らず「とっとと」通過した  
次回来ることがあれば散策してみたい・・・



空もすっかりドピーカンになり、「陽だまりハイク」だ。気持ちが良くて遊んでしまった



ホテルの近場付近になると、徐々に植生が変わって来た



「すみれ」ちゃんが、頑張って咲いていた。しっかりと整備された遊歩道の様な感じだった



「いつか森になる道」とは、関係者の心根が伝わっていい。この辺りからは「こもれびトンネル」だそうだ



トンネルの主役は、やはり「やぶ椿」だった



14：40・ホテル（496m）到着。遠回りの表砂漠コースを通って来たが、予定よりも20分早かった  
ここでも、「あんこ」は出迎えてくれなかった。チェックインを済ませ部屋へ



部屋から三原山を望む・遮る物や人工物の無い美しい展望だ

お昼に見た海越しの、陽光の中の「富士山」と、夕暮れ前の「三原山」。何れも心地いい景色だった  
いささか「年季の入ったホテル」だったが、三原山ハイクには最適のロケーションだろう



部屋では「つばき」が待っていてくれた



文さんは、用心して「お茶け」



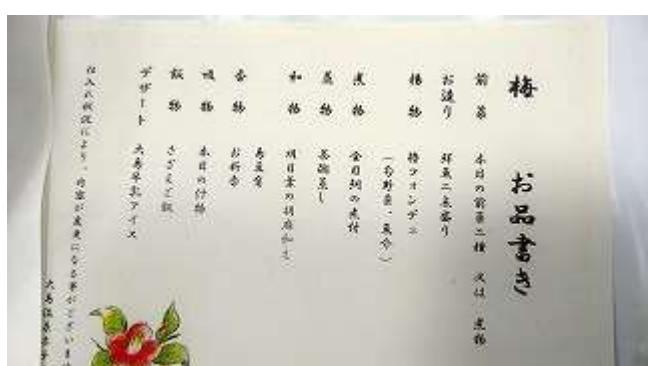
吉松さんと石井は、「500」で乾杯・沁みわたる



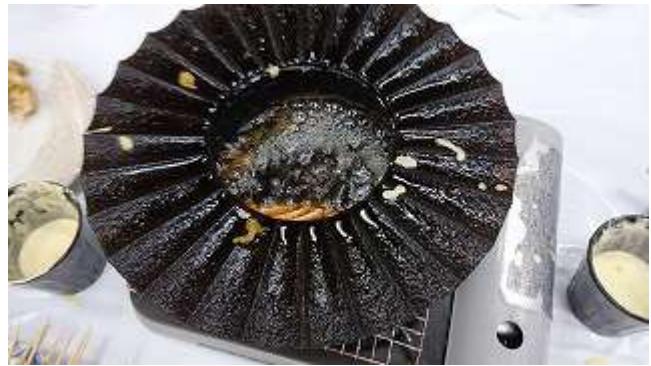
17:57・夕食前の三原山



夕食会場は今日の定番「がらがら」である



お品書きに「梅」とある。「椿・つばき」と、こだわっている割には「梅」？



雄さんから「椿フォンデュ」で良いですかと聞かれて、皆さん「お任せです」と答えたのだがチーズフォンデュのイメージがあり、食べ終わった後でも串揚げだったと思い込んでいたよくよく考えると、「椿油のオイルフォンデュ」だった様で、横に置いてある器の「バッター液？」を付けて揚げるやり方が、誤解を生んだような気がする。笑い話もいいところだった・・・



締めは神津島の麦焼酎、櫻樽貯蔵熟成の「盛若」

夜半に空を見上げると、「星さんたち」が、「ピカ・ちか・ぴっか」としておりました

今回の「伊豆大島三原山＆椿祭り」は、竹芝組が船の引き返し（欠航）で来られず残念でしたが熱海組は、雄さんの企画のお陰で「御烈風」など、色々と楽しめたハイクになりました。  
とりわけ、花（つばき）より団子（風景・海・山）の石井は、あんこ（伊豆大島）が好きになりました。  
「あんこさん」には会えなかったけれど  
「あんこ椿は恋の花」を口ずさむ様になってしまいました。

改めて、雄さん、「ありがとうございました」

竹芝組は近日中にリベンジを計画されておられます、天候に恵まれますように・・・